

IPBES総会第11回会合に関する 専門家所見

橋本 禪

東京大学大学院農学生命科学研究科・教授

生物多様性、水、食料及び健康の間の相互関係に関するテーマ別評価 (ネクサス・アセスメント)

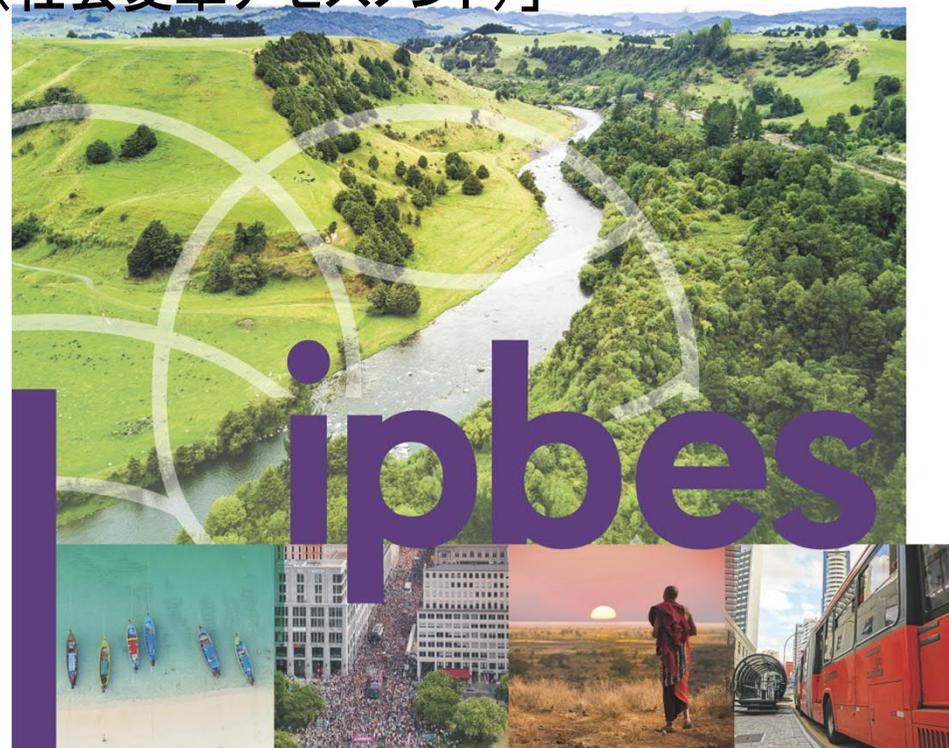


The thematic assessment report on
**INTERLINKAGES AMONG
BIODIVERSITY, WATER,
FOOD AND HEALTH**

SUMMARY FOR POLICYMAKERS



生物多様性の損失の根本的要因、変革の決定要因及び生物多様性2050ビジョン達成のためのオプションに関するテーマ別評価 (社会変革アセスメント)」



The thematic assessment report of
**THE UNDERLYING CAUSES OF BIODIVERSITY
LOSS AND THE DETERMINANTS OF
TRANSFORMATIVE CHANGE AND OPTIONS
FOR ACHIEVING THE 2050 VISION
FOR BIODIVERSITY**

SUMMARY FOR POLICYMAKERS



地球規模評価で登場した重要概念

Nexus

定義: 生態系の構成要素と人間による利用の相互関連性(について)・・・個々の構成要素だけを見るのではなく、複雑なシステムの機能、生産性、管理を考慮する・・・。ネクサス・アプローチにより、持続可能な開発目標や生物多様性の目標との間の相乗効果やトレードオフに同時に対処できる。

※SPMにはNexusは記載されなかった。

Transformative change

定義: パラダイム、目標、価値観を含む、技術的、経済的、社会的要因にまたがる根本的なシステム全体にわたる再編成

「自然の保全、再生、持続的可能な利用と世界的な社会目標は、社会変革に向けた緊急で協調した努力によって同時に達成することができる」(地球規模評価SPM, セクションD)

地球規模評価第5章は、ネクサスアプローチにより、
生物多様性・NCPの保全と人間の福利やニーズを満たす方法を模索

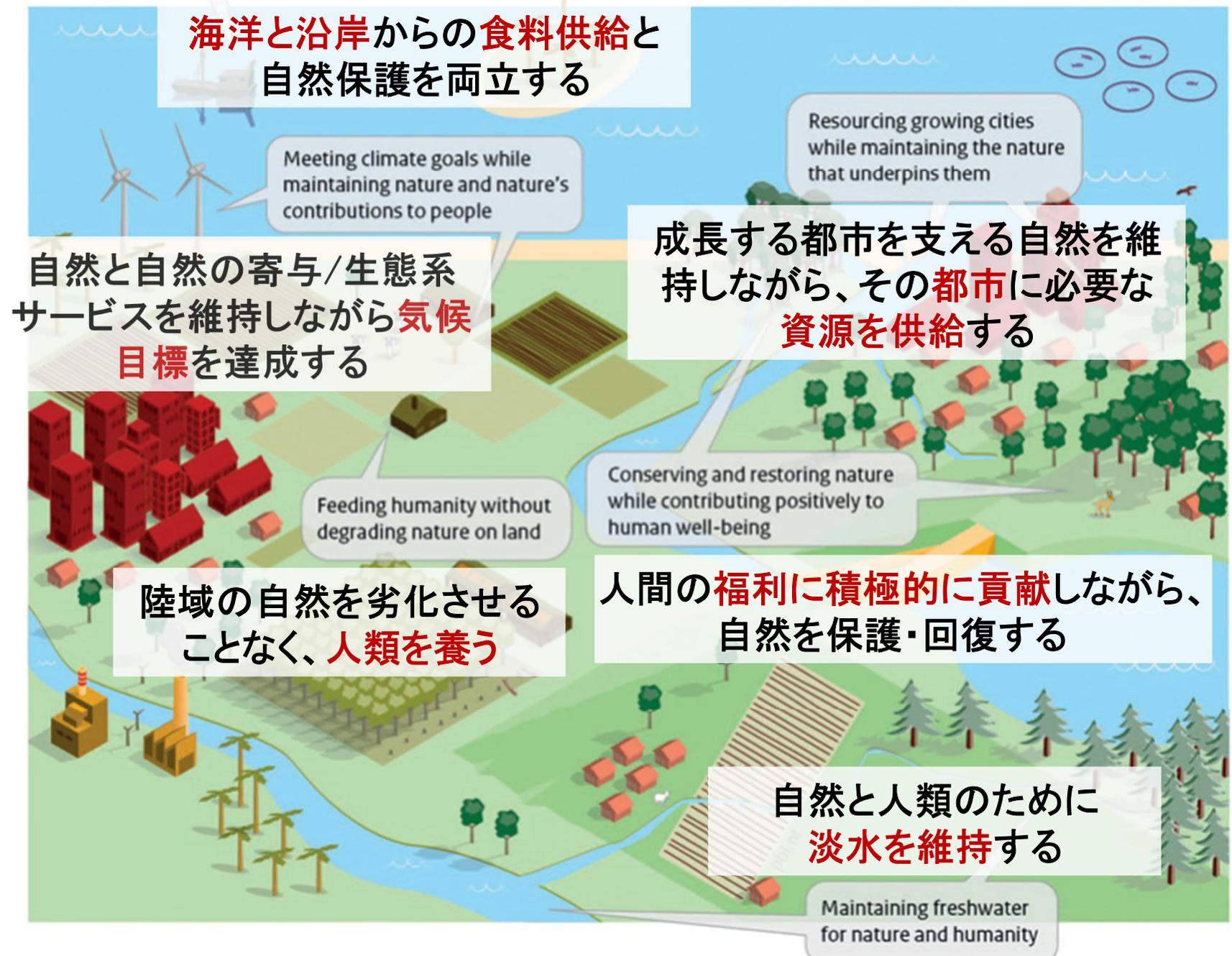


図5.2 第5章のネクサス分析の焦点 (IPBES地球規模評価, 2019)

①直接要因の背後にある間接要因の働きかけが重要



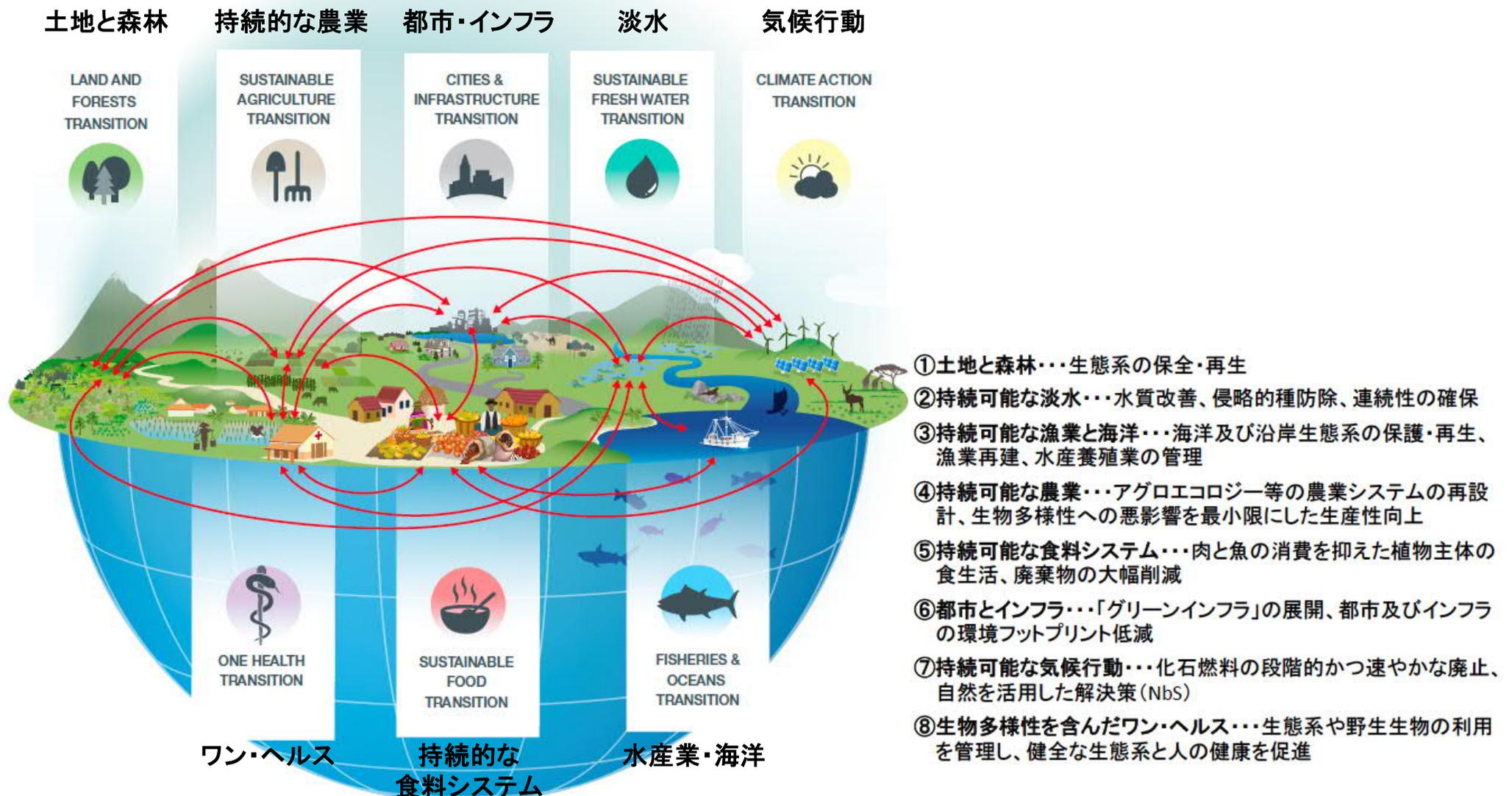
②レバレッジポイント(介入点)をターゲットとして、適切に介入(レバー)を実施することで、より持続可能な社会への変革が可能

図SPM9 地球の持続可能性の実現に向けた社会変革(IPBES地球規模評価, 2019)

地球規模生物多様性概況第5版(GB05)

生物多様性2050年ビジョン達成に向けて移行 (transition) が必要とされた8つの分野

ここにもネクサスの視点・・・人類のニーズを満たしつつ保全をどう実現するか？



生物多様性条約「昆明・モンリオール生物多様性枠組」

新枠組には、①ネクサス的な視点から「(1)生物多様性への脅威を減らす」と「(2)人々のニーズを満たす」を両立すること、②(社会変革に必要な)さまざまな間接要因への対処が埋め込まれている

2050年ビジョン 自然と共生する世界

2050年ゴール

A 生態系の健全性、連結性、レジリエンスの維持・強化・回復。自然生態系の面積増加
・人による絶滅の阻止、絶滅率とリスクの削減。在来野生種の個体数の増加
・遺伝的多様性の維持、適応能力の保護

B 生物多様性が持続可能に利用され、自然の寄与(NCP)が評価・維持・強化

C 遺伝資源、デジタル配列情報(DSI)、遺伝資源に関連する伝統的知識の利用による利益の公正かつ衡平な配分と2050年までの大幅な増加により、生物多様性保全と持続可能な利用に貢献

D 年間7,000億ドルの生物多様性の資金ギャップを徐々に縮小し、枠組実施のための十分な実施手段を確保

2030年ミッション 自然を回復軌道に乗せるために生物多様性の損失を止め反転させるための緊急の行動をとる

2030年ターゲット

(1) 生物多様性への脅威を減らす(直接要因)

1. すべての地域を参加型・統合的で生物多様性に配慮した空間計画下及び/又は効果的な管理プロセス下に置く
2. 劣化した生態系の30%の地域を効果的な回復下に置く
3. 陸と海のそれぞれ少なくとも30%を保護地域及びOECMにより保全(30 by 30目標)
4. 絶滅リスクを大幅に減らすために緊急の管理行動を確保、人間と野生生物との軋轢を最小化
5. 乱獲を防止するなど、野生種の利用等が持続的かつ安全、合法的なものにする
6. 侵略的外来種の導入率及び定着率を50%以上削減
7. 環境中に流出する過剰な栄養素の半減、農薬及び有害性の高い化学物質による全体的なリスクの半減、プラスチック汚染の防止・削減
8. 自然を活用した解決策/生態系を活用したアプローチ等を通じた、気候変動による生物多様性への影響の最小化

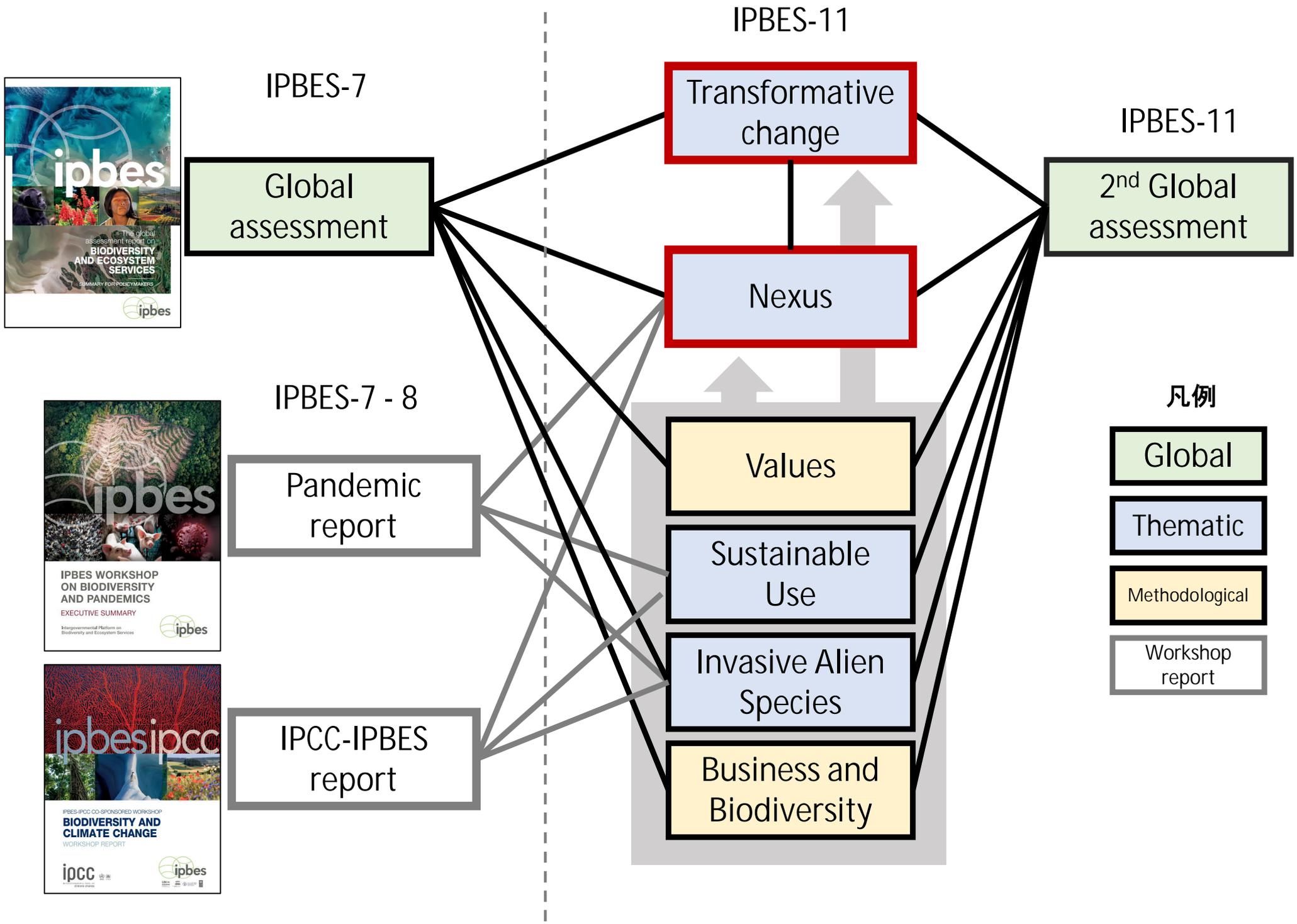
(2) 人々のニーズを満たす(間接要因・NCP/ES)

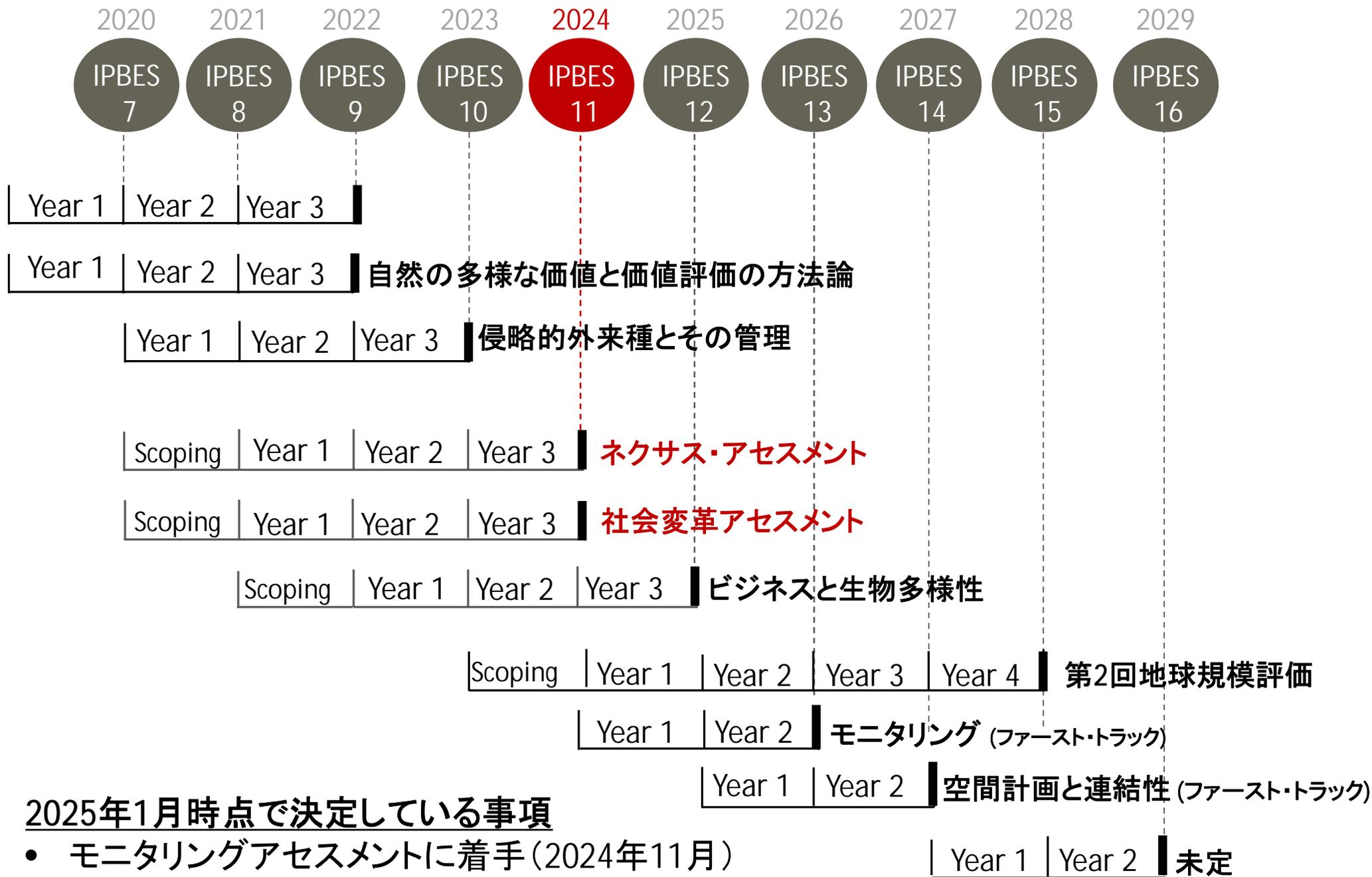
9. 野生種の管理と利用を持続可能なものとし、人々に社会的、経済的、環境的な恩恵をもたらす
10. 農業、養殖業、漁業、林業地域が持続的に管理され、生産システムの強靱性及び長期的な効率性と生産性、並びに食料安全保障に貢献
11. 自然を活用した解決策/生態系を活用したアプローチを通じた、自然の寄与(NCP)の回復、維持、強化
12. 都市部における緑地・親水空間の面積、質、アクセス、便益の増加、及び生物多様性を配慮した都市計画の確保
13. 遺伝資源及びデジタル配列情報(DSI)に係る利益配分の措置をとり、アクセスと利益配分(ABS)に関する文書に従った利益配分の大幅な増加を促進

(3) ツールと解決策(間接要因)

14. 生物多様性の多様な価値を、政策・方針、規制、計画、開発プロセス、貧困撲滅戦略、戦略的環境アセスメント、環境インパクトアセスメント及び必要に応じ国民勘定に統合することを確保
15. 事業者(ビジネス)が、特に大企業や金融機関等は確実に、生物多様性に係るリスク、生物多様性への依存や影響を評価・開示し、持続可能な消費のために必要な情報を提供するための措置を講じる
16. 適切な情報により持続可能な消費の選択を可能とし、食料廃棄の半減、過剰消費の大幅な削減、廃棄物発生的大幅削減等を通じて、グローバルフットプリントを削減
17. バイオセーフティのための措置、バイオテクノロジーの取り扱いおよびその利益配分のための措置を確立
18. 生物多様性に有害なインセンティブ(補助金等)の特定、及びその廃止又は改革を行い、少なくとも年間5,000億ドルを削減するとともに、生物多様性に有益なインセンティブを拡大
19. あらゆる資金源から年間2,000億ドル動員、先進国から途上国への国際資金は2025年までに年間200億ドル、2030年までに年間300億ドルまで増加
20. 能力構築及び開発並びに技術へのアクセス及び技術移転を強化
21. 最良の利用可能なデータ、情報及び知識を、意思決定者、実務家及び一般の人々が利用できるようにする
22. 先住民及び地域社会、女性及び女兒、こども及び若者、障害者の生物多様性に関する意思決定への参画を確保
23. 女性及び女兒の土地及び自然資源に関する権利とあらゆるレベルで参画を認めることを含めたジェンダーに対応したアプローチを通じ、ジェンダー平等を確保

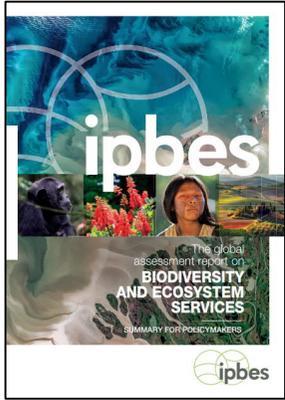
実施支援メカニズム及び実現条件/責任と透明性(レビューメカニズム)/広報・教育・啓発・取り込み





2025年1月時点で決定している事項

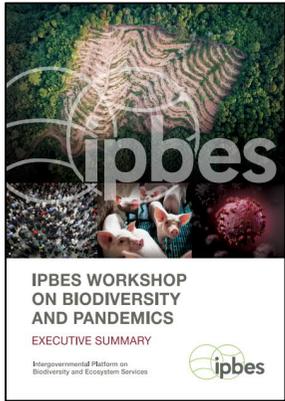
- モニタリングアセスメントに着手 (2024年11月)
- ネクサス、社会変革アセスメントが採択 (2024年12月)
- 空間計画・連結性アセスメントの著者募集中
- 第2回地球規模評価の著者募集予定



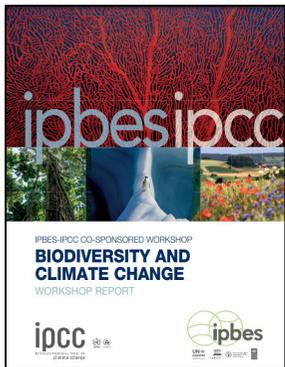
Global assessment

IPBES-7 - 8

Pandemic report



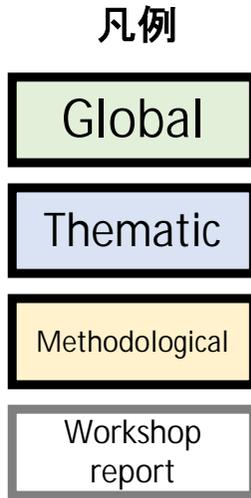
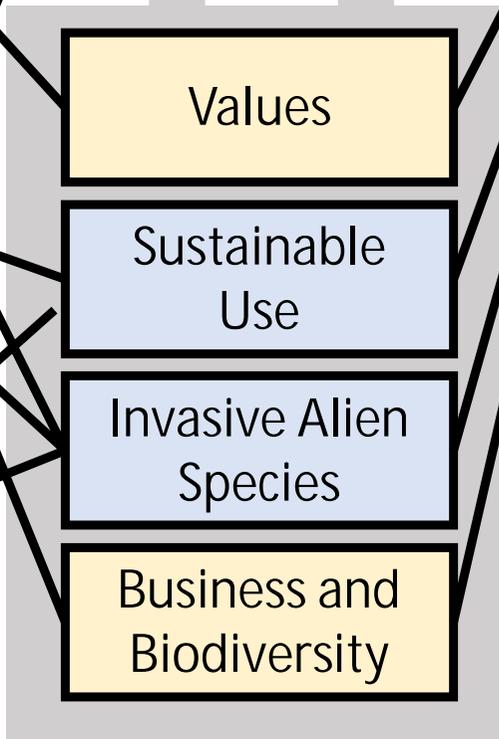
IPCC-IPBES report



Transformative change

Nexus

2nd Global assessment



Monitoring

Spatial Planning & Connectivity

「第2次地球規模評価」スコーピング文書の概要

第1章: 背景説明

- 第1回世界アセスメント以降の生物多様性と生態系サービスをめぐる世界的状況の変化
- 評価全体のロードマップ各章の構成とつながり、IPBESの概念フレームワークとその用語の解説

第2章: 異なる知識体系と先住民及び地域社会の役割

- 先住民や地域コミュニティと自然との関係についての世界観、価値観、実践の検証
- 多様な知識体系がどのように持続可能な生物多様性の成果に貢献し、アセスメントの他の章に情報を提供できるかを評価

第3章: 現状と傾向

- IPBESの概念枠組みの主要な要素(①生活の質、②直接的・間接的要因、③自然、④自然の寄与)を対象とし、様々な指標を用いて世界および地域の傾向を評価
- 世界目標、特に「昆明・モンリオール生物多様性世界フレームワーク」や「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に対する進捗状況を評価

第4章: 将来の道筋

- 生物多様性と生態系サービスに関する様々な将来シナリオを検証
- 生物多様性の損失を食い止め、反転させるために必要な変革の道筋と、それら道筋の自然、自然の寄与、生活の質に対するさまざまな道筋の影響について検討

第5章: 行動のための選択肢

- 生物多様性の目標を達成するための過去の行動とその有効性のレビュー
- 成功事例を特定し、変革を可能にする要因に関する証拠の提示
- 様々なステークホルダーとガバナンスについての行動のためのオプションのポートフォリオの提示
- 保全、回復、持続可能な利用のための資金調達の課題、その実行支援のためのオプションも検討